

科目名	放射線治療学臨床実習Ⅰ			分野・必選別・単位数	専門実習科目	選択	4単位
担当教員	◎教授 岡本孝英 教授 大谷浩樹 准教授 菱木 清					授業方法	実験・実習
課程	博士後期	配当年次	1年(*1)	配当学期	通年	配当コース	診療放射線コース 医学物理士コース
授業の概要	近年、放射線治療技術の高度化に伴い、放射線治療の理論と技術の修得は不可欠である。位置決め、照準をはじめとする実習を通して実務にも精通し、併せて理論の構築を図る。また、医学物理士コースにおいては、本科目が次年度に行う「放射線治療学臨床実習Ⅱ」の基礎となる実習である。						
授業の到達目標	臨床実習により経験したそれぞれの放射線技術に関して、医療的な側面の基礎および学問的な側面の基礎について概説ができる。						
授業計画	回数	担当者	行動目標				
	<p>【行動目標】</p> <p>学部卒業後、臨床に就くことなく博士前期課程さらに博士後期課程に進むことにより、それ以前に経験した実習や病院臨床実習で培った技術、知識が時間とともに不毛となってしまう問題が危惧される。そこで博士後期課程でも、臨床の場において放射線治療技術学の実地研鑽を行い、その知識を修得する。</p> <p>本実習を通して、経験豊富な先輩技師の教育とその指導の下で患者に対する医療を試み、その評価ができる。</p>						
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	次回の実習内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	実習中の疑問点をまとめ、関連する成書や文献などを利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に60時間以上の予復習が必要。					
教科書	特に指定しない。						
参考書	特に指定しない。						
評価方法	臨床実習への取り組み80%、レポート20%						
その他履修上の注意事項	(*1)配当年次、診療放射線コースは1・2・3年のいずれか、医学物理士コースは1年 実習場所:帝京大学医学部附属病院 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						